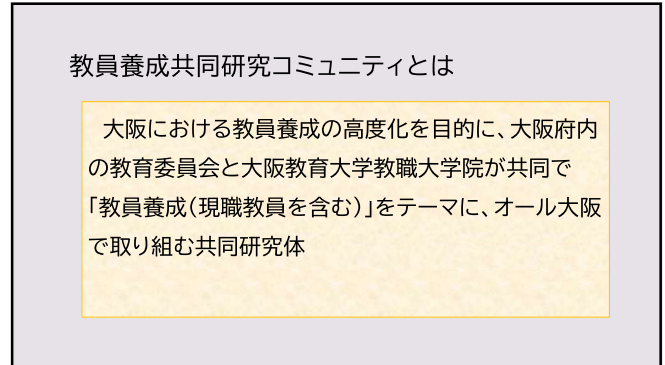
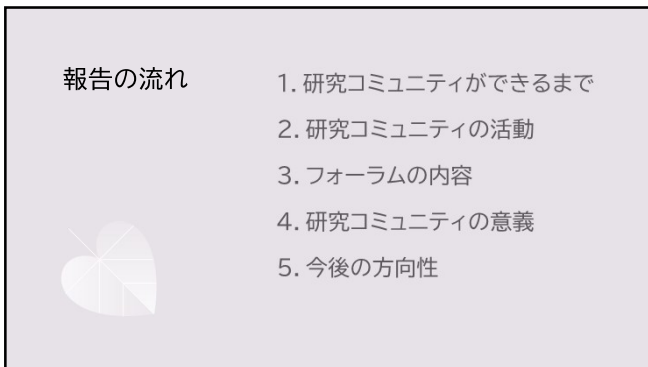


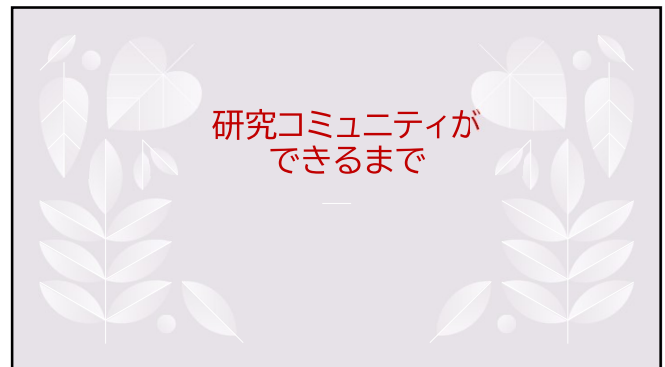
1



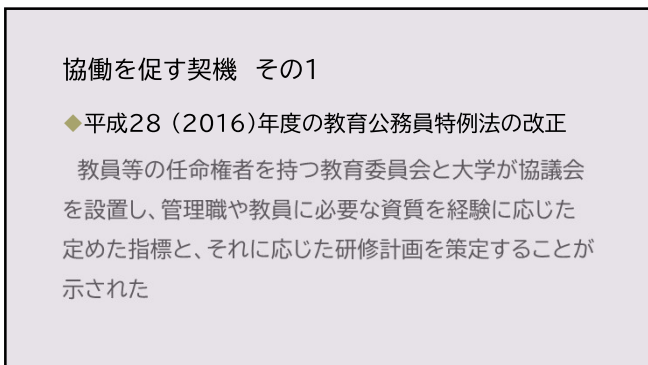
2



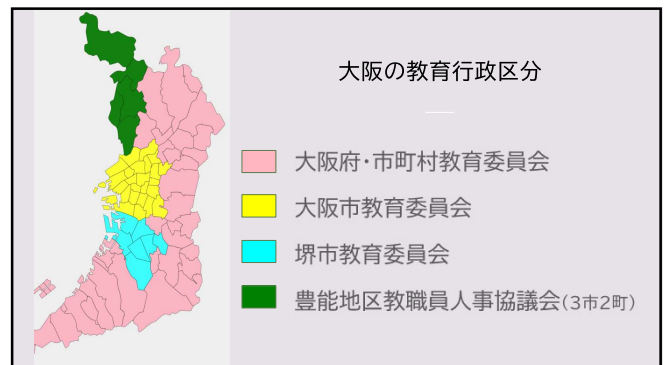
3



4



5



6

## 協働を促す契機 その2

### ◆平成30(2018)年度「拡大連携協議会」

大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、堺市教育委員会  
 豊能地区教職員人事協議会、大阪教育大学  
 共同研究を進めていくことで合意  
 研究テーマを決めるためのワーキンググループを設置

7

## ワーキングの活動

### ◆4者でワーキングを開催

豊能地区教職員人事協議会は活動協力

### ◆「研究コミュニティ」を設置することを決定

### ◆研究テーマは「教員育成」とする

8

## 研究コミュニティの活動

9

## 令和元(2019)年度の活動

### ◆全体テーマ「交流」

\* 行政研修における活用(教員)

\* 行政研修における活用(教員)

\* 学校における活用

\* 育成指標と教職大学院学位プログラム

10

## 令和2(2020)年度の活動

### ◆全体テーマ「検証と開発」

\* 育成指標に基づいた研修の現状分析

\* 育成指標に関わる研修コンテンツの開発

\* 初任期教員の職能成長にかかる調査研究

11

## 令和3(2021)年度の活動

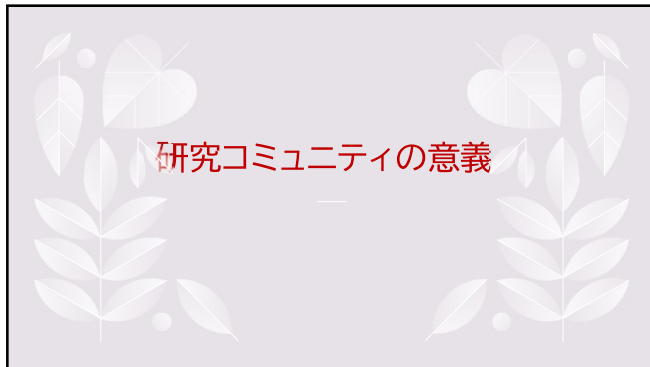
### ◆全体テーマ「検証と提案」

\* 教員育成指標の活用

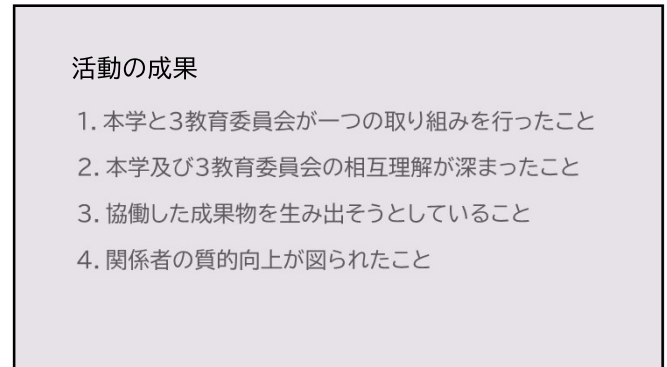
\* オープン・エデュケーション・システムと今後の教員研修

\* エビデンスに基づく教員研修の実施と養成・採用・研修の接続

12



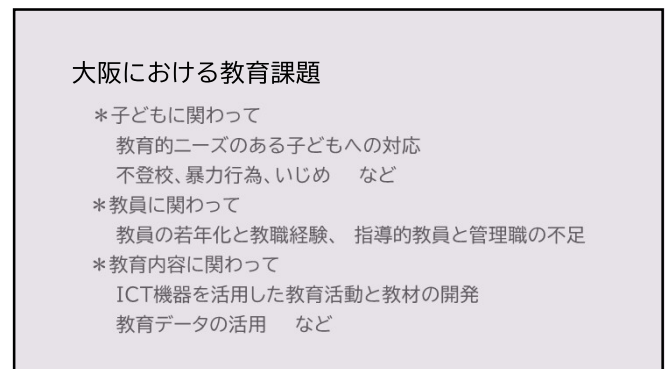
13



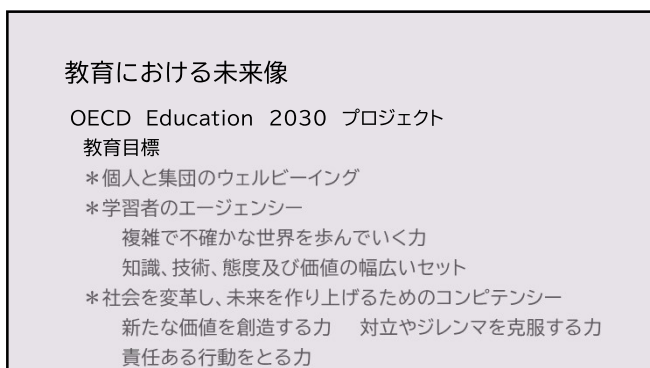
14



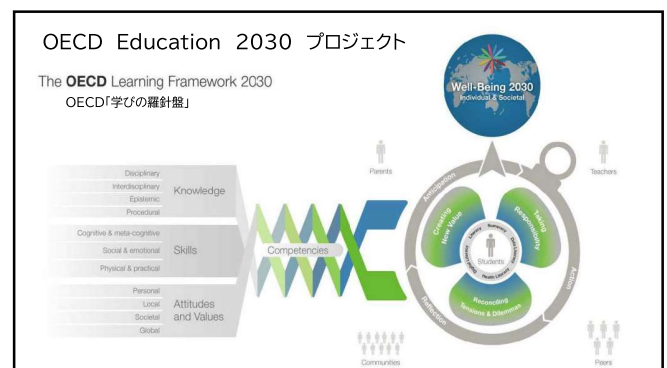
15



16



17



18

## 教育における未来像

### OECD Education 2030 プロジェクト カリキュラムについて

1. 生徒の関心を「学習時間の長さ」から「学習時間の質」にシフトする
2. 生徒が学習に没頭し、深く理解するために学習内容は質の高いものにする
3. カリキュラムは、革新的なものであると同時に、公平を担保する
4. カリキュラム改革を効果的に実施に移していくために、よく練られた計画と各実施段階間の整合性の確保が極めて重要

19

## 今後の方向性

### 教育の未来像に向けた取り組みを進めていく

4者の強みを発揮して、協働研究していく

1. 2030カリキュラムと教材の研究  
(例)総合的な学習の時間
2. 2030カリキュラムを担う教員養成(育成)  
(例)管理職研修(教員研修)  
研修に選択研修を取り入れ、選択研修は共同化する

20

ご清聴  
ありがとうございました



21